

Podcast Series 2: Tokyo Antitrust & Competition Group

Cross Border Antitrust & Competition

Episode 4: ロシア インタビューサマリー

FAS (Federal Antimonopoly Service) は COVID-19 に関するガイダンスを発行しましたか？ また、特に COVID-19 感染拡大の状況下での競合企業間での協調的行為がどのように扱われるのでしょうか。

COVID-19 は、他国と同様、ロシア経済に非常に大きなインパクトを与えています。2020 年 3 月初旬、この時はまだロシアにおける感染拡大の初期の段階でしたが、FAS は COVID-19 が企業活動及び当局の執行に与えるインパクトについてのガイドライン(以下「FAS ガイドライン」)を発行しました。FAS ガイドラインでは、FAS による反競争的行為に対する執行に際しては、COVID-19 の感染拡大の状況を考慮すると記載されています。

具体的には、COVID-19 感染拡大の状況は、資材の調達などにおける協調的行動に関して、企業にとっての不可抗力となりうることを示しています。しかし、そのような不可抗力が認められるためには、当該行為が、感染拡大の防止に向けた取り組みの一環であることが求められます。また、FAS ガイドラインでは、出社禁止や在宅勤務の状況下において、FAS によるリモートでの執行の可能性にも言及されています。

COVID-19 感染拡大の状況下において、入札談合に対する当局の執行はどの程度厳格に行われてきましたか？

ロシアにおいて入札談合が深刻な問題であることは政府も認識していますが、感染拡大を受けて、政府は FAS に対して、入札談合に対する執行を弱めるように指示しました。実際に、予定されていたいくつかの排除措置命令が延期されるなどの影響がみられています。

FAS としては、執行を弱める前例を作ることは積極的ではありませんが、政府の要請には従わざるを得ません。FAS の職員の大部分にも在宅勤務が命じられており、市場に対して監視が及びにくい状況です。2020 年上半期には、執行事例は前年比約半分になったとのデータもあります。医薬品や食料などの市場では値上がりの兆候も見られています。

企業結合規制は COVID-19 感染拡大の影響をどのように受けていますか？

協調的行為や入札談合に比べて、企業結合規制は COVID-19 感染拡大の影響をあまり受けていない分野と言えます。しかし、技術的な側面でいくつかの影響を受けています。

たとえば、FAS 職員の大部分が在宅勤務であることから、企業結合の届出は電子申請システムを利用することが推奨されています。従来もそのような電子申請システムの制度はありましたが、あまり利用されていませんでした。

また、企業結合審査に係る所要時間についても留意する必要があります。独占禁止法上、第一次審査(所要期間約 30 日程度)において、競争の制限につながる懸念があると判断された場合、FAS は審査期間を 2 か月延長することができるとされていますが、上記の通り、在宅勤務環境下で FAS の職員の業務処理が滞っていることから、基本的には全ての案件について 2 か月間の審査期間の延長が適用されると予測されます(つまり、企業結合審査には、トータルで少なくとも 3 か月程度かかると予想されます)。また、政府及び FAS は、自国経済の維持を図る観点から、特に外国からの対内投資に関しては審査が厳しくなっていることにも注意が必要です。